



浚渫直後の仁川合流点



たった 11 年で砂州が成長し緑が戻ってきた。



広がる砂州にヨシ原ハラが出現、オオヨシキリの鳴き声



流れのない湿地を好むガマやマコモ群落出現した。



汚れた所を好むモノアイガイ



汚れた所を好むヒル (種不明)。

仁川合流点の堆積土砂浚渫が 2004 年施工され、仁川の合流点に潜水橋が作られ、武庫川右岸の自転車道が河口から宝塚までつながり身近なサイクリングコースとして市民に親しまれるようになった。その後土砂堆積が始まりツルヨシが生え、柳の木が育ち、砂州の成長とともに流れも複雑になり魚が戻ってきた。魚だけではなく、子供たちも一緒に戻ってきた。ゴミも戻ってきた。心ある地域住民が一つ一つゴミを拾い上げるようになり、地域にとって非常に貴重な自然空間に育ってきた。昨年は潜水橋上下流の深みでアユの棲息も観察出来た。6 月 22 日にはオイカワやアユの遊泳が観察出来たが明け方のまとまった雨で水嵩あがり、23 日にはオイカワもアユ姿を消した。水嵩が上がりによる住みよい場所へ移動したようだ。汚れた所を好むものが少量確認出来た程度で水質・水量が望まれる。



抜けなかった矢板付近に砂州が出来始めた。



武庫川唯一の小さな干潟でも子供たちの楽園になる



テナガエビ釣り、量は望めなくても楽しむには不足なし



干潟ができればイソガニが居着く



アメリカネナシカズラ



宝塚大橋左岸側で見つけたカワラサイコ

昨年から増水・洪水被害はなく、6月に入り河川改修工事期間も終わり武田尾から下流での工事現場は無くなり、何時もの武庫川に戻った。充分育った草むらにはキリギリス・バッタ・チョウやトンボが、ヨシ原にはオオヨシキリの鳴き声が聞こえるようになった。野球・サッカーなどスポーツに興じる人には分からないかも知れないが、一旦姿を消したカワラサイコ思わぬところで花をつけていた。しかし喜んでばかりいられない。招かざる客の特定外来植物オオキンケイギク・アメリカネナシカズラ・ミスヒマワリ・オオカワジシャも元気出して蔓延り始めた。

抜き残された矢板が幸いして砂州が成長し始め、ゴカイ・イソガニの巣穴が沢山できてきた。河口の小さな干潟も、テトラポットか石を投げ込むなどの小ワザを市民で取り組む事が出来れば干潟再生も夢ではない。